

新たな委員会活動の取り組み ~研究・学術支援委員会~

研究・学術支援委員会担当理事 大平 光子（広島大学大学院）



研究・学術支援委員会では研究助成事業活性化に向けて新たに、研究助成応募時からの支援を充実させます。本学会では、2010年度より学術研究活動を促進し、特に若手研究者や臨床で働く研究者を支援することを趣旨として、研究助成事業に取り組んできました。毎年2～4件の応募に対して、1～2件が採択され、2021年度までに18件の助成を行いました。また、特別助成として、東日本大震災研究助成及び新型コロナウイルス感染症関連研究助成も行ってきました。助成を受けた研究は本学会誌及び本学会学術集会で公表していただき、研究成果を会員に還元しています。

2021年度からは、3つの新たな取り組みを始めます。①募集要項を見直し、若手研究者や臨床から積極的に応募してもらえるようにします。②研究助成応募書類作成に関するQ&Aを

本学会公式ホームページに設置します。③応募を検討している方の応募書類作成を支援するミニワークショップ（web開催予定）を企画します。

ミニワークショップの開催時期は応募書類作成を始められる12月末以降を予定しています。内容は応募書類の書き方に関するミニレクチャー及び疑問点について、参加者が講師と議論しながら解決していくことを支援するような企画を進めています。詳細はホームページ等でお知らせします。新たな取り組みを活用していただき、是非、多くの若手研究者や臨床の方が2022年度の研究助成に応募してくださることを願っております。研究助成制度の活性化に向けて、今後さらに会員の皆様の意見を取り入れながら取り組んでいきます。